

薬の伝言板

緩和ケアシリーズその2 前編



終末期の痛み以外の症状と薬 ～快適な最期を支えるために～

No. 340 2026年3月

丸子中央病院 薬局

終末期にみられる「痛み以外」の症状とは？

終末期の患者さんは痛みだけでなく、さまざまな不快な症状を抱えています。よくみられる症状として、

- 呼吸困難（息苦しさ）
- 不安・せん妄（混乱・意識障害）
- 倦怠感・脱力
- 咳・痰がからむ
- 消化器症状（便秘・腸閉塞・悪心嘔吐）
- むくみ・浮腫

これらの症状を和らげることが、患者さんの「穏やかな最期」にとって非常に重要です。

症状ごとの薬の使い方

① 呼吸困難（息苦しさ）



💡 対策と薬

- モルヒネの少量投与 → 呼吸中枢の感受性を下げ、呼吸の苦しさを軽減
- ベンゾジアゼピン系（クロチアゼパム、ジアゼパムなど） → 不安が強い場合に併用
- 酸素療法の適応を確認（酸素が必ずしも有効とは限らない）

② 不安・せん妄（混乱・意識障害）

💡 対策と薬



- 抗精神病薬（リスペリドン、クエチアピン、ハロペリドールなど）
→ せん妄や不穏状態の緩和
- ベンゾジアゼピン系（エチゾラム、リルマザホンなど） → 強い不安を和らげる
- 環境調整が重要（静かな空間、適度な照明など）

③ 倦怠感・脱力

💡 対策と薬

- ステロイド（ベタメタゾンなど） → 倦怠感を軽減し、活動性を向上
- 支持療法としての栄養・水分補給（ただし無理に摂取させる必要はない）



④ 咳・痰がからむ

💡 対策と薬

- 鎮咳薬（リン酸コデイン、デキストロメトर्फアンなど） → 乾いた咳を和らげる
- 去痰薬（カルボシステイン、ブロムヘキシンなど） → 痰が絡む場合に使用
- 体位調整・吸引の併用も重要



⑤ 消化器症状（便秘・腸閉塞・悪心嘔吐）

💡 対策と薬

- 便秘：刺激性下剤（センノシド、ピコスルファート）、浸透圧性下剤（酸化マグネシウム）
- 腸閉塞：ブチルスコポラミン、オクトレオチド（消化管の分泌抑制）
- 悪心嘔吐：制吐薬（ドンペリドン、メトクロプラミド、オランザピンなど）



⑥ むくみ・浮腫

💡 対策と薬

- 利尿薬（フロセミド、スピロノラクトンなど） → 不快な浮腫を軽減
- ポジショニング・マッサージも有効



薬だけでなく、環境調整やケアも重要

薬による症状緩和も大切ですが、

- ✓ 適切な姿勢の工夫（座位・クッションの活用）
- ✓ 声かけやタッチングによる安心感
- ✓ 家族や介護者が落ち着いて対応すること

こうした環境調整も、患者さんの快適さにつながります。



薬剤師の役割

薬剤師は、

🌀 症状に応じた適切な薬を提案 🌀 薬の副作用を最小限にする調整 🌀 家族や介護者が安心して薬を使えるよう説明
を行い、患者さんが少しでも穏やかに過ごせるよう支えます。

まとめ



終末期の患者さんにとって、「痛み以外の症状」を和らげることも、QOL（生活の質）の維持にとっても大切です。
薬の使い方だけでなく、環境やケアの工夫を組み合わせることで、患者さんがより穏やかに過ごせるようにすることが可能です。